〔明治三十二年十二月二日第三種郵便物認可〕 昭和十二年七月二日 磐城新聞 〔金曜日〕 第四千九百六十四號 〔一〕

夕刊 磐城新聞
七月一日發行
定價 一ヶ月金五十錢(郵稅拾五錢)
廣告料 普通欄金六拾錢 特別欄金九拾錢(五號十二字詰一行)(場所指定一行二十錢増)
編輯兼印刷發行人 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄受信電略(タイライデキ) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩は南東の風曇時々晴
明日は南の風曇時々晴

暁に思ひ浮べる (6)

赤井嶽男

人民の總意——。下は村會から上は代議士の場合迄選擧にはよく使はれる流行語であるが、所謂デモクラシーに於ける人民の總意とは人間個々の意志でもなくまた個々の意志の總計したものでもない。各の人民の意志を超越した一つの團体意志でルソオは之を名づけて總意と云つた。勿論總意は個々の意志が基となつて出來上つたものだが、旣に團体意志となつた以上は個々の意志とは別のものでなければならぬ。詰り個々の意志の織り合つて出來上つた或る特別な型で無ければならぬ。此の觀點からすると『市民の總意が反映して當選した平市會議員』こそ世にも輝かしい存在として一段と其の眞價を意義づけられる人達である。

×

デモクラシーの形には代議主義と直接主義と二つある。代議主義は代表者に代議させるもの、之と反對に人民が直接に支配に加はるのが直接主義である。が直接に支配すると云ふ事は、云ふべくして行はれない。ルソオも『嚴格な意味でのデモクラシーは、之迄あつた事も無し、また之から先もあり得ない』と云つてゐる。澤山の中から委員を選んでその委員にまかせる代議制度は、政治上にも産業上にも用ひられてゐる。此處がこの代議制度に就ても色々の議論がある。

×

代表者として選ばれたものが人民の意志を代表して代つて政治をとるのが代議政治だが、ルソオなどは人民の總意は決して代表し得るものでないと云ふ。人民の意志は刻々に變化する、自分自身にさへ分らぬ程に變化するその意志を、豫め代表してどう斯う云つた處がそれは駄目だと排斥する佛蘭西革命の大立物ロベスピールなども『代理と云ふ事はあり得るが代表と云ふ事はあり得ない』と云つてゐる。

——吾人の代表たるに最も適當な人物。なんて三者の推薦状の起草者と一で從來何回かそんな事を聞いては自分は何だか變にこそばゆくなつて來た。

磐城歌壇

新妻久滿夫選

○あきらめは悲しきものよ活きとして、生きるたのしさなにに求めん 諸根　樹

○思ふことのたゞ一つだにまゝならぬ、うつせみ悲しうらぶれの身は

○今日もまたひとり河畔にたゝずみて、暮れ行く空をあかず眺むる

○蛙子のあまた鳴きつゝ暮れなづむ、田の面は水の白く光れる

○夕映えて赤井の山の黒々と、静かに暮るゝゆふべかなしも

小評 稍々說明的なところと、概念的に詠まれてゐる憾がある爲に形式は整備してゐて格調の上にも或うまさを示してはゐるが、全休淡然として心を衝くぴりつとしたところが無くなつてゐる。大ざつぱに詠まないでもつと何かしつかりと掴んで見たら如何。

こだま

辰巳和子

山みち中途で
陽がはいる
立ち木のかげが
ふかくなる
日暮れだよう
よオう——
山びこさん

つばなをぬきぬき
もう歸る
野邊で夕陽に
さやうなら
またあしたあ
たア——
里びこさん

かくれんぼする時
立たされる
酒倉のかげ
さみしいな
もういゝかあい
カア——
壁ひこさん

賀古川氏再選 任植田町長

珠雲 小野務平

滿腹經綸賢且貞
自治美績煥然成
衆望一致重榮選
只今丹心發聖明

新刊紹介

△財政情報(七月號)近衛内閣の指導精神と其の財政を論じたる記事滿載(一部三十錢 稅一錢五厘 東京市銀座西五丁目五ノ五委吉ビル 其社)

地獄谿

杉田生

北海道旅行中の或一夜を登別温泉に泊つた騷々しく落付かないこの宿では、夢を結ぶ間もなく目が醒めてしまつたので、寢不足の重い氣持を洗はうと浴場へ降りて行つた、ひつそりとした浴槽、湯はさら／＼と溢れてゐる、目を瞑つて手足をなが／＼と温泉にまかせてゐると、やつと甦る心地がした

外はもう黎明の氣が白くたゞよつてゐるのだが昨夜遲くまで騷いでゐたらしい友達は起きて來る氣配もない。私はたつた一人、寢着のまゝ、宿の燒印のある下駄を引かけてぶらりと外へ出た、時計は丁度四時。さすがにこの温泉町も靜かに眠つてゐる。宿から遠くないときいて地獄谿の方へと歩いて見た、町はづれに湯氣の立つ山が流れて橋がある、橋のたもとの公園の木には、鴉が氣味の悪い聲で鳴きたてゝゐた

橋を渡ると、前方一帶しろ／＼と晒れた砂土の丘で一木一草もない、峙つた赭土の崖でかこまれたここが地獄谿である、ふつ／＼と沸きあがる熱湯の池、湯氣の硫黄の氣が渦まいて迫つて來る、さう廣くはないが起伏した丘をめぐつてゆくがまゝに、大地獄、鉛地獄虎地獄、大砲地獄、龍卷地獄等々、恐ろしい名のついた物凄い泥と熱湯の池や洞穴が口を開いて、獸のやうな唸りをあげてゐる、ともすればっ足下の土が壊れて自分も其中に引こまれさうな氣がする、時々霧か雲かさつと襲つて咫尺を辨じなくなるかと思へば、また忽にして霽れてしまふ。見上る向ふの山の樹の、櫻と見える梢が七月の末だといふのに、早くも紅葉してゐるのがあり、芒までが穗に出て風になびいてゐる。まだ日はさして來ないし、人つ子ひとりゐない、私は涼しいといふよりも肌に粟立つまで寒くなつてしまつた

7月2日

△半夏生△遣唐使藤原常嗣小野篁一行筑前を出發(承和三)△鹿兒島灣に薩英戰爭火蓋を切る(文久三)△滿洲に萬寶山事件起る(昭和六)△ツェッペリン最初の硬式飛行船試驗飛行に成功(一、九〇〇)

講談 妖刀流轉 (128)

邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

怪しき六部(八)

屏風のやうな山に取圍まれた谷底へ連れ込まれ、そこへ置き去りにして、駕籠屋が空か籠引かつぐや、スタ／＼逃げて行かうとするから、驚いたおちかは一生懸命の聲を絞り、

ち『これお前達は何處へ行く、斯様な所へ女一人を置去りにして、其方達は何うしようと云ふのぢや、道人の庵とやらは何處に在る、新七殿は何れに居るのぢや!』

呼び止められて振返つたか籠屋が、

か『何を云つてやアがる、そんな事を知るものか、俺達は頼まれた駄賃だけの仕事をすりやア役が濟むんだ、泣くとも叫るとも勝手にしてゐろ』

△『跡は野となれ山となれだ』

酷い奴が有るもので、谷川の岸を傳ひ、何處ともなく逃げ去つて、忽ち影も見えなくなつた。

おちかはキッと思案いたし、何でも構はぬ今か籠屋が逃げて行つた方の道を、迪つて行つたら麓へ出られるだらうと考へ、小褄を端折つて早足に行かうとする後方から、

○『コレ御新造、何も逃げる事はない、先づ暫くお待ちなされ』

太い聲で呼止めながら、傍らなる木立の蔭よりヌッと現れた一人の山者、おちかはギョッとして振返つたが、その顔を見て吃驚いたし、

ち『其方は先刻新七を同道した……』

六『オッ、如何にも合宿の六部だ、墨染ならぬ鼠の行衣で殊勝らしい修行者に形ばかりは拵へても、心は根つから煩惱を斷ち切れねば凡夫の六欲、これも因果か道中で其方の容色を一目見てから何としても思ひ切れず、後を尾けて同じ宿屋へ泊込んだは一仕事する魂膽、襖一重で聞くとも知らず、新七とやらが盲目の恐痴、これ幸ひと口から出任せ、療治の世話をしてやらうと、親切ごかしに新七をこの山中へ連れ込んだも邪魔を遠ざけ二つには、お前を此處へ釣出す計略、如何に百搔かうと喚かうが、人里離れたこの谷底、迚も助かる事ではないから、從順に乃公のいふ事を聞き、此身の望みを叶へて呉れ、嫌やだといやア命はねえぞ』

と遂に假面を脫した兇漢が、眼を据わておちかに肉薄して來た。

この六部こそ誰あらう笠取の隱家を後にして、『廻國の旅へ出た大島傳五郎であります

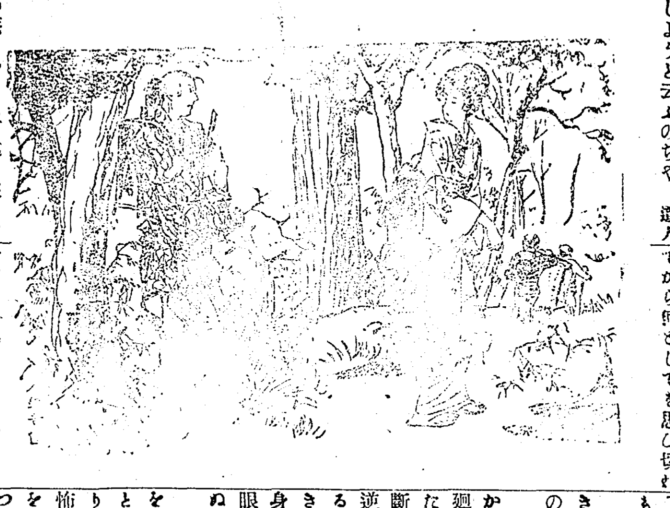
笠取の山中でお紋を手にかけ、同時に隱れ家は燒けて了つたので、傳五郎はこの山を立退く事になつたが惜しくて堪らないのは例の兇刀で、お紋に手首を咬まれ痛さの餘りに手を離した時に、一刀は谷底に落ちたが下へ廻つて行つたら見つからぬ事もあるまいと、傳五郎は大骨を折つて谷底へ下りて見たが如何に探しても刀が有りません

これは無い筈で、一足先きに十內が拾つて立去つたのだ

傳五郎そうとは知らないから、まだ諦めかねて探し廻つてゐる中に、目に入つたのは谷底へ落ちもやらず斷崖の中復へ引つかゝり、逆さになつてぶら下つてゐるお紋の屍體、宛ら鬼の如き形相となり肌も露わに全身血潮を浴び、頭髮は亂れ眼球飛出し、目も當てられぬ死樣を曝らしてゐる

流石の兇漢傳五郎、これを見ると慄然と致し、二度と見直す事も出來ない、餘りの恐ろしさ淺ましさに、怖毛をふるつて其の儘山中を逃げ出したが、何時迄經つてもお紋の慘たらしい最後の狀が目先にちらつき傳五郎程の奴だが滅切りやつれが目立つ程ふさいで了つた

惡人ながら多少は後生氣も出たものか、思ひついたのが六十六部、そこで修行者に姿を變へ、置きどころもない五尺の身體を、廻國して送る事にした



重田眼科
眼科一般
眼鏡檢定
醫師 重田景治
平驛前通り元福島貯蓄銀行跡
平市田町一番地

外科一般 内臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
〔血液檢査每日〕
イツデモ入院デキマス。
平市新川町二七〔電四六四〕
醫學博士 北川芳夫
技師 小林良次

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

旅館 大幸館
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
電話下谷園六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

豆炭、コールタール販賣
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金七十五錢也
小袋 壹貫匁入 金二十錢也
壹袋カラ配達致シマス、ドウゾ御注文下サイ。
一、コールタール一本(十五キロ入) 金九十五錢
一本ヨリ配達致シマスカラ是非御試メシ下サイ。
電話三七番
平驛前 阿部石炭店

諸機械製作販賣
合名會社 田邊製作所
平白銀町(驛前通) 電話二九四番
機械切各種歯車製作

耳鼻咽喉科
高柳醫院
平驛前(電三三六)
醫學博士 高柳博明
(入院應需 自炊ノ便アリ)

皮膚科
泌尿器科
性病科
專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
電話六九一
醫學博士 江尻伊三郎
入院隨意

食事 喫茶 酒場を兼ねた
レストラン
サロン
平市田町 電話三五二

產科
婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
病室增築、手術室完備
平市新川町『電話三六九番』
往診隨時

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六番地
電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

產科
婦人科
花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市紺屋町 電話六八番

第一次豫選は濟んで 最後の遭遇戰近づく
審判は僅かに中八日

法定數の得票が見込み立たず、大枚二百圓の供託金がフイになりさうな危ぶなかしい候補者は夙くも形勢を看て取つて潔く引つ込まうと豫想された最終翌日の卅日も健康其他已む無き事情に因る阿部氏の退讓を除く外無事に經過して茲に定員の一倍と三分の二に相當する五十名の候補者は滯り無く第一次豫選が濟んだわけで、今日以後の競爭こそ各々押しも押されもせぬ本選手同志の制覇戰である。尤もいま一と息でゴール入りが出來る迄に漕ぎつけた危い當落の轉機に起つ一部を除き、大体は既にその運命が決せられ要は掉尾の振否に支配さるる若干の得喪に過ぎぬであらう。而も當選確實の處は論外として他は略ね他候補の劣勢を客觀し合ひ、私かに自己陶醉に陷つてゐるは選擧通有の皮肉な悲喜劇であり其れ丈け蓋あけ後の幻滅が深刻なわけである。最後の審判日は愈よ中八日の目睫に迫つた。暗澹な積雲にも怯げず、いとも颯爽として立ち並ぶ各候補の看板は、日一日と滿幅の鬪意を漂はせ、宛として寄らば倒さんの槪を見せてゐる處、平市議の選擧戰はいまやさまに最後の遭遇戰に入る直前の山雨至らんとして風樓に滿つ不氣味な場面を展開し來つた

總意の反映は？

熱辯を 揮ふ候補者二十名 一人十五分以内で
合同演說會近づく

福島民報平支局主催の市會議員候補者合同政見發表演說會は愈よ明後三日午後五時半から第三小學校、聚樂館の二ヶ所で開くが出演者左の如く一名一ヶ所十五分間以內、明二日午後二時から市會議事堂で順番決定の抽籤を行ふ

△出演者（申込順）

井上茂作 遊沼龍輔 關內正一 野崎滿藏 島目雅治 吉田五平 山野邊義政 荻原義雄 酒井清 川崎文治 佐々木龍若 鈴木長三郎 草野七五三之助 小松茂 新妻善吉 鈴木致雄 金古政通 多田井榮次郎 伊藤儀七 吉田寅之助

立候補屆出

△上平窪字町田鈴木庄之助（五五）

祈願祭順序
明後三日兩神社で

明朗市會の建設を目指して市役所が明後三日午前九時から子鍬倉、飯野八幡の兩神社で執行する祈願祭の式順序左の如し

修祓 祝詞奏上 代表者祈願詞奏上 祭主代表者玉串奉奠

町村議改選 殆ど終了

去る四月二十日江名町をトップに行はれた郡下町村會議員の選擧も悲喜の紋樣を織り成して順次進められ殘るは今一日の赤井と四日の勿來の兩町村となつて今年はこれで終了する、今後の分は左記五ヶ村である

△十三年七月二十五日—田人 八月二日—荷路夫 三日—貝泊 四日—石住

△十四年十二月二十五日—山田

大野村議當選者

大野村議の改選を三十日執行、當選者左の如し

八二小野善太郎 七七草野康平 七四木田織江 五八佐藤善多 五七鈴木文夫 四九中野幸平 四九鈴木明 四八吉田丑藏 四八鈴木永次郎 四七會田喜市 四六西山惠一 四〇會田松治 （次點）三六金成忠義

勿來町議戰迫る

勿來町の町會議員選擧は四日執行されるが定員十八名に對して目下の立候補者二十一名三名超過である

勿來公會堂 三日地鎭祭

勿來町では同町窪田小學校脇に中山組請負ひで公會堂乘爾堂を建設することとなり三日午前十時から地鎭祭執行 工費二萬八千圓 九間に二十一間の木造平家である

救世軍平小隊長脱退 新に傳導教會を計劃

救世軍本部における改革派と本部派の抗爭は改革派の大擧脱退により一應落着の形だが落着がないのは地方分隊で本縣にあつては福島若松、郡山、平四小隊のうち平、郡山は早くも脱退した平小隊長澁戸悌藏氏は目下日本福音傳導教會を起す計劃の下に奔走中であると云ふ

野村帝國水產會長來郡 內山技師を伴つて 地方漁業界視察

帝國水產會長子爵野村益三氏は年產一千萬圓を突破する躍進的な本縣の水產業を視察すべく內山技師帶道二日來縣するので縣から竹內水產課長、野崎技師が案內して淡水漁業としての縣會津孵化場、其他各河川等を視察後濱通りに來り縣水產試驗場及び小名濱、江名、四倉等の遠洋漁地における各種漁業、製造狀態を視察する筈である

戶別訪問可なり 女にも權利ある
但し土地賃貸價格調査委員選擧

一部選擧運動者の理想たる戶別訪問可なり。而して女權擴張の前奏曲とも云ふべき彼の所得調査委員選擧と共に有夫の婦を除く成年の女性にも權利がある來る二十日の土地賃貸價格調査委員選擧は漸く迫つた。一市三十三町村の全面的に亘る選擧であるが、差當り餘り油が乘つて來ないのは未だ時期が少しく早いせいか、尤も某々村では既にそろ〳〵動き始めたらしいが略ね村長で一般には之に關心あるものが殆ど無い樣である。委員の數は平市三名、爾餘の町村各一名で合計三十六名であるが對社會的には市町村會議員ほどに華やかで無い丈け、大ていの候補者は町村長位で、折角の除外例乍ら目の色變へての戶別訪問が行はれる迄には活氣づくまいと觀られてゐる

安田畫伯 滯平揮毫

書壇の雄安田傘契書伯の來平を機として地方名士多數發起の下に同氏の新作頒布會が開かれてゐる書伯は故前田多門氏に學び現在玉堂氏に師事中である帝展派の中堅で二月滯在中である

花祭り後—病院巡り—
第二の床しい催し

第二校では七日花祭りと七夕祭の會を催し終つて乙女達が市內各病院を訪れ成績品や花束を贈つて病床者を慰める——例年のことながら床しい催しの一つである

四倉から 魚類罐詰出陳
東北物產陳列所へ

四倉町石城水產加工販利聯合會製造の鰯、鮭の罐詰が今回橫須賀市に設置された東北六縣物產常設陳列所に出陳されることゝなつた同陳列所は北日本農村工業協會が海軍購買係に對して東北六縣農村工業及副業品の大量納入の促進を圖るため設置されたもので來月上旬には海軍購買關係者及東北六縣副業關係主任が橫須賀市に會合してこれが納入打合會を開き東北物產の認識を深め大いに購買促進に努める

第三球技大會。。。。

平第三小學校では十七日全兒童の球技大會を開催

小湊氏に懲役七ヶ月 關係者七名に及ぶ
四倉の違反に判決

四倉町仲町々議小湊平次郎(五二)氏に絡る選擧違反事件は三十日平區野木裁判長より左の如く言渡しあつた

△懲役七ヶ月追徵金七圓小湊平次郎(五二) △罰金二百圓追徵金二十圓小湊セン(五二) △懲役三ヶ月追徵金四十五圓門馬傳治(五九) △同三ヶ月追徵金二十圓戶田彌太郎(四〇) △懲役二ヶ月追徵金三十五圓緒方萬次郎(五九) △同二ヶ月追徵金二十六圓新妻政義(三〇) △罰金五十圓追徵金十五圓根本智一(四四)

金成氏繰上げ當選

四倉町會議員小湊平次郎氏は去る二十一日町議の辭表を提出したため二十九日の選擧町會で次點者金成岩吉氏が繰上げ當選と決定

殺人男に懲役六年

昨報—懲役八年を求刑された勿來の殺人男——田人村南大平小松熊太郎方土工古家小二郎(五〇)は一日平支部中島裁判長から懲役六年を言渡された

磐炭軍出場 選手權大會へ
郡下陸上競技

磐炭競技部では來る十一日の日曜、午前九時から磐中グラウンドに擧行される体育協會石城支部主催郡下陸上競技選手權大會に出場することゝなつたが多數優良選手を擁してゐる關係だけに戰績を期待されてゐる

兒童体育大會協議

郡下第三區平方部十六校の体操主任會は二日

投檜 投書歡迎

。。。。。近頃感じた事

◇市制實施と共に其筋がダンゼン嚴しいお達しをした南町女の『街頭進出禁止令』はまことに結構なお取り計ひである

◇私は勤め先の關係などでどうしてもあの通りを通らなければならず、從來は事もあらうに眞つ晝間から堂々とあの手を用ひられたので少からず閉口してゐたものだが、このせつではいとも神妙に格子の中に控へてゐるので安々と通れるんだから全く有難い

◇今後もこの神妙さを守りつづけて『南町女は氣分がよい……』と云ふやうな印象を外來客にも與へたなら實際いゝものだ、花柳街の發展はその町の殷賑を物語るものであることを忘れずに、つゝましやかな女となつて欲しい

（市內一小心男）

自棄くそ只飲み 時代の波に追はれた
音樂士の成りの果

刑務所行き志願から無錢飲食した男——永戸村生れ當時住所不定窃盜前科八犯熊谷政常(三四)は仙臺署の取調べを終了し二十九日身柄を送局された

同人はサイレント映畫華やかなりしころ東京淺草の富士館で將來を囑望された樂士であつたが時代のトーキーに追はれてルンペンとなりカメラ泥棒をやつたのが惡の第一課入門となり神戶、京都、大阪等で刑務所生活を味ひ何時しか前科八犯の肩書がつき、靈肉の傷手に前途の光明を失ひ仙臺驛前赤玉カフエーで無錢飲食をやつた 自らの身體を持て餘した氣の毒な男の告白に係官も痛く同情してゐる

四十男の片思ひ
脅迫狀からバレる

市內材木町飲食店長久保邦安方止宿人生方保吉(四四)は年甲斐もなく邦安の娘ハル(二五)假名—に懸想し、思ひついたのが脅迫狀

お前が祖父と關係してゐることを俺は知つてゐる俺の云ふことをきかねば新聞に出させる、これについて話したいことがあるから二十八日午後六時半まで聚樂館の脇まで來い

こんな手紙が二十七日ハルの許に屆いたので吃驚、父親と相談した上平署に屆け出た、同署で內偵した結果前記生方の仕業と判つて昨夜遲く留置場にたたき込まれてしまつた

大鯉續々斃死
植田の鑛毒禍解決

植田町、長山丈吉氏が經營する養魚場の大鯉が最近一萬八千匹も斃死したので、長山氏は錦村昭和人絹會社より流れ來る礦毒によるものと同社に對し一千圓の損害金を請求してゐたが廿九日錦村長金成金治氏の調停により七百五十圓で解決した

兒童体育大會

郡下第三區平第一外十五校五百名の兒童体育大會は二十四日午前九時から高月臺上に開かれるが競技種目左の如し

△尋常科(男子)百米 四百米繼走 走巾跳 ボール投 体操 (女子)八十米 四百米繼走 走巾跳 ボール投 体操 △高等科(男子)百米 八百米 八百米繼走 走高跳 ボール投 体操 (女子)百米 八百米繼走 走巾跳 ボール投 体操

胸部を刺す
小名の玩具屋

小名濱町上明神町玩具商吉川光喜(三二)は去る二十三日午後三時半頃自宅に於て同町義兄竹林忠喜(三七)と商賣上の口論から傍にあつた小刀で義兄の左胸部を突き刺し全治三週間の傷を負はせて平署に擧げられた

第二校の催し。。。。

平第二校では來る二十九日父兄を招いて『唱歌と遊戯の會』

巷……の……挨……

湯本町三函六三長屋倉坑夫青柳作一郎クン、最近つく〲內妻關ハル(二五)さんに嫌氣がさし別れ話しがもち上つてゐたがハルさんの方ではまだ〲未練があり昨夜『別れちやいやよ……』とご亭主に迫つたがアッサリ拒絕されたのにフンガイ、庖丁逆手に『殺せ〲』の騷ぎを聞きつけた平署員が取り靜めた上『しばらく別れてゐれば自然仲よくなるから』と云ふ粹な裁きでハルさんを一と先づ近所の坂本野菜店へ

二日 滿潮 前一〇、二五 後一〇、一〇 干潮 前四、一〇 後三、二〇 （小名濱測候所發表）

舊五月二十四日 木曜 庚寅 佛滅 成 牛宿 新七月二日

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 貞實を旨として金錢に目をくらまさる可らず▲二黑 急流に陷りし如くもがきても押流さるゝのみ▲三碧 運氣不可なきも我意を張るよりけん者に從へ▲四綠 だく水治りて淸澄に歸せるが如し病難は注意▲五黃 人和を求むれば衰運にも係らず平靜を保つ▲六白 氣運優良にして凡ての計畫も達成に近づく▲七赤 百里の道も半ばを過ぐ緩々進むが吉病注意▲八白 運氣充分ならず急功を望みて失敗あるべし▲九紫 開きし花の忽ち散るが如し折角の望も絕ゆ

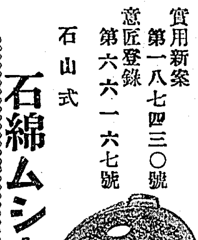
廣告

平市新川町 木村病院 電話一六七番

平市南町 根本產婦人科 電三四

實用新案第一八七四三〇號 意匠登錄第六六一六七號 石山式 石綿ムシカマド

こんな經濟的な『かまど』は他にありません 安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絕對安全!、御使用に御便利な!石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。



平市五丁目 和洋銅物金物問屋 釜屋商店

內臟外科一般 外科花柳病科 （入院隨意） 平市六丁目（橋際） 木村外科醫院 電話三〇九

難波醫院 內科 小兒科 入院應需 自炊の便あり 平市大町 電話五〇二番 看護婦見習、看護婦募集 醫學博士 難波陸

安田傘契畫伯作品頒布會

川合玉堂門下の安田傘契畫伯は日本畫會、中央美術展に數回入選し、帝展四回入選の常連で帝展派の中堅として將來を囑望されてゐる青年作家であるが今般同氏の來平を好機に青沼臨時市長、遊沼關內、野崎小野四縣會議員、諸橋久太郎氏等地方名士二十二氏發起のもとに同氏の新作頒布會が計畫され同氏は市內白銀町やよひ館で作品の揮毫中である、同好の士の御入會を待つ

傘契畫伯後援會

潤規 一、尺五絹本 金四十圓 一、尺三絹本 金三十圓 一、紙本半折 金十圓 其他御希望により御相談に應じます、畫題は主として花鳥、山水

申込所 平市田町五〇（電話六一二番） 福島民報平支局 平市鷹匠町 鳥越由彌 平市大町 前田表具店